

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472800293		
法人名	特定非営利活動法人 グループホームなごみ		
事業所名	特定非営利活動法人 グループホームなごみ		
所在地	大分県玖珠郡玖珠町大字山田2734番地		
自己評価作成日	評価結果市町村受理日	平成30年5月1日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成30年3月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域行事への積極的参加と、なごみ内での癒しの空間作りに力を入れている。
また、家庭的な雰囲気作りをし、「やさしく」「ゆっくり」「寄り添って」をモットーのもと、のんびりとした 時間を提供し ます

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・開設して15年が経過されているがマンネリ化もなく、常に利用者本位のサービスが提供されている。
- ・地域の住民や子供との触れ合いが多く、学校の行事や地域行事に招待され参加している。
- ・利用者のその時々々の要望などに対し、柔軟に対応されており、利用者には穏やかさがある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を理解し全員が確認し地域との関連性を重視した理念を大切にしている	理念は事務所やホールなどに掲示している。理念を基に、大切にされていると実感できるケアを、振り返りながら取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方達から野菜の差し入れや小学校の運動会・地区の祭り等の行事に積極的に参加している。	近隣の方が野菜の差し入れなどに訪れたり、地区の行事や、小学校の行事に招待されたりと、日常的に交流が持たれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイト等を通じて町の取り組み(声かけ模擬訓練)への参加		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営委員会で話し合われたことが一つずつ実現されている。屋外灯設置等。	運営推進会議で話し合われたことや意見を活かし、屋外等の設置など、事業所のサービスや質の向上へ取り組んでいる。推進会議の記録は事務室前に置いてあり、閲覧できる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議開催時に、詳細に説明し、行政との連絡を密にしている。また、不明なことが生じたときには行政に相談し、担当者とは常に連絡を取り合っている。	行政の担当者と、運営推進会議出席時などに、事業所の実情について伝え、相談に乗ってもらったりアドバイスや情報交換など、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵はせず、好きな時に外に出かけられるようにしている。居室のベットの柵を頭側1点だけにし自由に出来るようにしている。	身体拘束や精神的な拘束をしないケアについて研修を行い、職員全体で正しく理解し、ケアに取り組んでいる。日中は玄関に施錠はせず、ベッドの柵は頭部のみにしたたり、ベッドに鈴を付ける等、工夫をしながら支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ご利用者の身体に現れた内出血等はポディーチェックノートに記載し、こまめに観察し、原因・再発防止に努めている。施設内研修を行なっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関する知識が不足していると感じるため研修など積極的に参加し、学ぶ機会を増やしたいと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を設けて丁寧に説明している。特に利用料・看取り・リスク・重度化について事業者の取り組みを説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者、ご家族からの訴えに対し、要望に応えられるよう努力しているが、ご家族との意思疎通がやや不十分な面がある為、各職員の説明能力の向上にも努めていきたい。	運営について、利用者と家族の意見や要望は面会時や運営推進会議時に聞いており、運営に反映させるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時などに運営方針を説明し、職員の意思を反映・必要があれば随時意思を聞き、迅速な対応を心掛けている。	毎月のミーティング時に、活発に意見が出され話し合われている。また随時意見を聞き、運営や就業体制・資格の取得など、職員の意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則の見直しを行い、休日・特別休暇・労働時間を改め、よりよい環境作りを行っている。超過勤務については記入しやすい環境にある。給与は出来る限りアップしてあげたいと考えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJT体制により、ケアの向上に努め、職員の資格修得を支援し、研修会への参加を支援している。研修会については、代表・管理者による提示が随時行われており、参加しやすい環境ができています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は、同業者と交流する機会が少ないので、今後、訪問等の活動を通じてサービスの質を向上させていきたい。交流会の参加の回覧を回しているが、勤務体制でなかなか参加できない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員は、ご本人が発した言葉の一つ一つに耳を傾け、不安解消のために何ができるのか、職員間・家族等で話し合いながら支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望や不安に思っていることにも耳を傾け、どのようにしたら良いか職員間で話し合い、ご家族にも提案しながら支援を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に、ご本人・ご家族と面談し要望を聞き、サービス内容を理解して頂く。ご家族の要望に添わない場合には、他施設との連携を図り、調整を行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に過ごし支え合い、寄り添う介護を行う中で、感謝の気持ちを伝え、必要な存在であることを感じてもらえるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、ご家族とゆっくりお話しが出来る環境を整え、疎遠になっている方には、お手紙で近況報告し、また職員もお手伝いすることで、面会や外出の機会が増えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事業所での生活歴が長い方は、職員や近隣住民と、地域での新たな馴染みの関係が作られている。地域行事の参加を積極的に行っている。	本人がこれまでに生活してきた中での馴染みの関係が途切れないよう支援し、さらに近隣住民や地域ボランティアなど、地域での新たな馴染みの関係が築かれるなど、交流は積極的に行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の会話は、以前に比べて増えている。意思疎通が難しい場合は、職員が間に入りトラブル防止に努めている。」		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	代表・管理者とは断ち切らない関係作りができており、相談を受けている。また要望があれば他施設へ訪問など行っている。また病院に移られた方のお見舞いなど退所された後も気にかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中から希望や意向を聞き出せるようにし、その人らしい生活が送れるよう把握に努めている。	日々の関わりの中、利用者一人ひとりの思いや意向を会話や表情などから把握し、本人本位に検討し支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	思い出話などの中から本人の入居以前の生活歴を探り、その方の生活リズムに合ったその時々暮らし方・行動が出来るよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごした内容と心身状態を、申し送りと経過記録等を用いて職員が把握できる。出来るかもしれないという思いを常に持ち本人の行動を観察し、有する力を発揮できるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員からの情報をもとに計画作成担当者が介護計画を作成し、月1回ミーティングにて利用者全員の現状の把握・支援方法について検討している。また、ご家族来所時にモニタリング結果の確認をして頂いている。	一人ひとりの今までの暮らしを踏まえた上で課題やケアについて本人や家族・関係者と話し合い、介護計画を作成している。月一回ミーティング時に現状について話し合い、モニタリングを行い計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の重要性を認識しており情報の共有ができるよう丁寧な記録を心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人を支えるための多機能化、ご本人やご家族のニーズには十分対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に地域のボランティアの方が訪問し、歌や踊り、子供達とふれあいの場がある。おたから文庫(小学生)の慰問がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者個々の入居前からのかかりつけ医の継続受診を行っている。定期受診は、ご家族対応で行われることもある。緊急時は、職員対応での受診、情報の共有も行っている。	かかりつけ医の継続受診や、医療連携契約を結んでいる病院医師による週1度の訪問診療・訪問看護など、適切な医療が受けられるよう支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	病院と医療連携契約を結び、週1回Drの訪問診療によって体調管理を行っている。訪問看護利用時は看護師との情報共有を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医と密に相談し、ご本人にとって一番良い環境提供に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者の状態変化が起きた際は、その都度ご家族と話し合いを持ち、病院との連携によって対応できるようにしている。	重度化や終末期のあり方について、事業所として出来ることの説明が行われており、同意をもらっている。状態変化時には、その都度家族や連携病院と話し合い、チームで協力しながらターミナルケアに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応・事故発生時に備えて普通救命講習へ参加しているが定期的に行っていないため、今後、急変時に備え実践力を身につける。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回地域の方達と避難訓練を実施。月1回自然災害の話や、訓練を利用者と共に行っている。	年に2回は、地域住民や消防団・老健施設と協力し、防災避難訓練を実施している。避難場所の確認や災害についての話なども月に1度行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや口調に留意しプライベートな場所での声掛け。その方にあった声掛けを心掛けている。	誇りやプライバシーを損ねないよう、言葉使いや口調・声の大きさなどに留意し対応を行っている。また、なれなれしくなったり、自尊心を傷つけないよう心掛けてケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に傾聴する姿勢をもち相手の方に合わせた対応を心掛けている。信頼関係が出来るようなコミュニケーションをし、遠慮なく希望が言えるよう対応している。また、自己決定を待つことも心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせるよう努めている。利用者の今希望されていることが把握できるようコミュニケーションをとり、日々変化する希望に合った支援が出来るよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容室に来所して頂いている。ヘアカラーを希望される方には希望時に染めています。衣類の汚れに気を配り、こまめに着替えを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	状態の変化に応じた食器の選択等で自力での食事が楽しめるようにしています。また、野菜の皮むきや漬物をつけたり、干し柿を作られたりと、季節を感じられるよう工夫している。	野菜の皮むきなどの準備や片付けなど、それぞれの能力を活かしながら利用者と職員と一緒に、三食手作りしている。季節を感じられるものや行事食など楽しんで食事出来るよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態・量、食事制限や食事時の留意点を職員全員が周知している。各自のペットボトルを用意し飲みたいときにご自分で飲めるようしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれに適した口腔ケアを行っている。うがいや歯磨きが難しい方もいますが、分かりやすい言葉で伝えるよう心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ほとんどの方が布パンツを使用し、排泄状況を記録、排泄パターンや様子観察を行いながら自立に向けた支援をしている。また、自尊心を傷つけないよう声掛けには十分気をつけている。	排泄パターンや様子を伺いながら、声かけをトイレへ誘導し、排泄の自立にむけた支援を行っている。また自尊心を傷つけないよう、声かけの際に番号を使用して、他の利用者に分からないようにするなどの工夫がされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方には、リハビリや腹部マッサージ、牛乳・ヨーグルト、食物繊維など食事に配慮しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日が確定されているが、希望者がいる場合はその日の入浴も行っている。また、体調に合わせ清拭・シャワー浴など随時対応している。	基本的に週に2回は入浴を行ってもらようよう支援している。入浴の曜日を確定しているが、希望があれば個々に沿っていつでも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望と声掛けにて、いつでも休めるようにしている。以前、家で使用していた家具や写真を部屋に置き、落ち着いた居室環境にしている。日中の外気浴や外出等を行い安眠につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が処方された場合は、副作用や留意点について情報を共有、申し送り事項や服薬チェック表を用いると共に、職員2名での服薬確認にて、確実な服薬に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴の中で趣味や得意な事を見つけ発揮できるよう機会を作っている。生きがいや役割を持ち、張り合いのある日々を過ごして頂けるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日には、庭や畑、近隣へ散歩に出掛けています。また紅葉を見に行かれたりと、体調を考慮しながら外出しています。	日常的には庭や畑など近隣の散歩を行っている。季節の花や紅葉などを見にドライブに出かけたり、馴染みのある三島公園や高塚地蔵などに出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時、買い物ができるように財布を準備し、ご自分で支払って頂いている。普段の金銭管理は、ご家族が行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っておられる方は、自由にご家族と連絡を取られています。ご家族からのプレゼントのお礼の電話は、ご本人がかかるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の花を植えたり、行事ごとの飾り付けを皆で行い、季節を感じられるよう工夫しています。数カ所にソファや椅子を用意し、利用者の方が思い思いに過ごせる共有空間作りを行っている。	季節の花を植えたプランターや行事の飾りなど季節感のある空間で、思い思いの場所できつろいでもらえるようソファや椅子が置かれている。明るくゆったりとした居心地よく過ごせる工夫のある共有空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席替えや家具の配置替え等、利用者が居心地よく暮らせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ使い慣れた家具を持ち込んで頂き、家庭的な雰囲気でご過ごせるよう心掛けている。また写真を飾り、安心してくつろげる空間ができるようにしています。ベッド柵は職員の手作りの布カバーで保護され、温かみのあるものになっている。	使い慣れた家具や好みのものを持ち込んでもらい、利用者本人が居心地よく暮らせる居室づくりがされている。またベッドの柵には職員手作りのカバーがかけられ、安全で温かみのある居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや各自の居室の入口に名前を書いた札を掛けており、字の大きさ・目線に入る位置を考えスムーズに行けるよう工夫している。また、目が見えにくい利用者がケガのないよう環境整備を心掛けています。		